

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	日本飛行機(株)航空機整備事業部 第1ハンガー	階数	地下1F、地上1F
建設地	大和市草柳2-28	構造	S造
用途地域	工業地域	平均居住人員	50人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,920時間/年
建物用途	事務所・工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年5月 予定	評価の実施日	2015年10月27日
敷地面積	12,447 m ²	作成者	アルモ設計
建築面積	10,104 m ²	確認日	2015年10月27日
延床面積	10,052 m ²	確認者	鹿島建設横浜支店一級建築士事務所



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.3

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.7

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.2

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

3 設計上の配慮事項		
総合 ・大和市に計画された航空機整備場である。高効率な設備機器を採用した環境負荷の低減に配慮した建物である。		その他 -
Q1 室内環境 ・評価対象外。	Q2 サービス性能 ・耐用年数の長い材料を積極的に使用して、建物の持続性に配慮する。	Q3 室外環境(敷地内) ・空調熱源機器及び高温排熱の設備機器を設置しないことで、敷地内温熱環境の向上に配慮する。
LR1 エネルギー ・高効率な設備機器を導入し、エネルギーの効率的利用に配慮する。	LR2 資源・マテリアル ・井水の利用により、水資源保護に配慮する。 ・CO ₂ 消火設備や発泡剤を使用しない断熱材の採用により、オゾン層破壊への配慮する。 ・主要構造体にSM490Aの鋼材を使用している。	LR3 敷地外環境 ・燃焼設備を設けないことにより、大気汚染防止に配慮する。 ・屋外照明の計画は、周囲への漏れ光に配慮する。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される